

2019年(令和元年)

第140号

(8月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

壮年総会 ～「でけへんは、いわへん」 近畿、各教会で受け入れ実施～

壮年総会が6月29～30日、近畿の各教会で受け入れを実施、京都教会でも6教区28教会の壮年が集まりました。



29日の大阪教会での開式をインターネット配信により教会法座席で拝見。別会場にも関わらず一体感を感じることが出来ました。甲府教会の櫻林議長はG20大阪サミットが開催されている地に壮年が集えたことは意味があると発言。

昨年、神戸に壮年が集い、その流れで近畿の壮年が今回の受け入れを発案。まさに壮年の「発」だと述べました。「でけへんは、いわへん」は近畿らしいと今回のテーマを説明しました。その後、大阪教会の大江さん親子、岡山教会の岸本さんの説法がありました。

次に庭野光祥壮年本部長が登壇。「世界中の異なる宗教の方々とお会いすると、その宗教に染まってしまうように思いますが、私の場合は、より仏教徒になっていくことを感じる」と自身の近況を報告されました。

また説法の内容に触れ、人生は苦であると解説。法華経は100%救われる教えであり、死の苦しみをすら

乗り越えられ、因縁に翻弄されず生きる力を得られるのが佼成会の教えであると述べました。さらに人生は短いため、待っていないで自ら歩みだしたいと話すと共に、夕方からの手どり布教に期待を寄せられました。

その後、京都教会では28教会混成の29班に分かれ、各支部の手どりにまわりました。教会帰着後は食堂において懇親会を開催し、手どりの報告や各教会活動の実態など、情報交換を行いました。

30日は京都散策をしたのち、大阪教会へ移動。京都教会に残り中継映像にて参加する壮年部員は「にぎわい総会」の様子を拝見しました。

メールの紹介や電話ときどき大作戦など趣向を凝らした内容に法座席からも笑みがこぼれ、大阪会場の壮年が参加する前の気持ちと布教後の気持ちを漢字一文字で発表されると更に笑みや共感を得ました。

庭野壮年本部長はお言葉の中で、開祖さまのやくしんでのご法話を紹介。法華経は現実生活を離れることなく、すべてを善に変えることが出来ること、個人の能力を最大限に発揮すればすべてが調和すること、法華経を得た人は社会が救われなければ自分も救われないと知っていること、自身的人格完成は利他行によって完成することだと述べられました。

また人を動かすには、①信仰の力、②感情の力、③存在の力、④ありとあらゆる関係の力と解説。

壮年総会の返事は「YES」か「はい」と話し、壮年部員の今後の布教に期待を寄せ締めくくられました。



に、努力したいものです。そ、次代につながるよう増えるでしょう。だからこ
 ▼時代が変わると、人手不足や経済的理由で、続けることが難しくなることも増えるでしょう。だからこ
 ▼時代が変わると、人手不足や経済的理由で、続けることが難しくなることも増えるでしょう。だからこ
 ▼時代が変わると、人手不足や経済的理由で、続けることが難しくなることも増えるでしょう。だからこ

時事刻々

♪あたらしい朝がきた
 希望の朝だ♪ 誰もが耳にしたことのある曲
 ラジオ体操の歌です。毎年、この時期になると早朝から市内の辻々では、朝早くからカードを下げた子どもたちが駆け集まってきます▼ラジオ体操が全国放送されたのが1929年で、90年目になります。その翌年に東京の交番の巡査が近所の子供たちを集めてラジオ体操の会をつくり、全国に広がったそうです▼ラジオ体操を始めたのは、旧簡易保険局(現在のかんぽ生命)です。そのご縁もあって、今でも同社が出席カードを無料で提供しています▼しかし残念なことに、最近少子高齢化や部活動の早朝練習などの影響で、かつては夏休み中に行っていた体操会も、2週間ほどに縮めたり、実施しないところも増えてきているようです▼時代が変わると、人手不足や経済的理由で、続けることが難しくなることも増えるでしょう。だからこ

今月のことば ～自分の宝を輝かせる～

亀岡支部 主任 菱田 順子

「今月のことば」を担当させて頂きます、亀岡支部主任の菱田順子です。

この度、原稿を書かせて頂くお役を頂き、自分の宝とは何かを探究しながら書いております。

拝読いたしますと、自分の宝を輝かせるには、まず人と比べる見方をしないこと。仮に比べる見方をして劣等感を抱いたとしても、無益な憎しみに発展せず、自らを成長させるバネにしていけば劣等感も向上心に変わる大事な感情であることがわかりました。オリンピックの選手はこのバネにしていっていき気持ちの切り替えがとても上手だと聞いたことがあります。

また以前に家庭教育で教えて頂いた「他人の子や兄弟と比べない。比べてよいのは昨日の我が子と今日の我が子」という言葉を思い出しました。その事は子育てだけではなく、私達大人の成長にも同じ事が言えるのではないのでしょうか。開祖さまの「苦難に立たされた時、いよいよおもしろくなってきた」というお言葉にも通じるものがあると思います。

それでは、どのようにして自分の宝を見つけ、輝かせていけばよいのでしょうか？

後段での自らの宝に気づいて喜ぶだけではなく、まだそのことを知らない人に自分の気づきを伝えて、その人の宝を照らすふれあいをしていくと、自分の仏性がよりいっそう輝く、と教えて頂いています。

この一節を拝読して、思えば私もそのようにふれあって頂き、今日があると感謝の念が沸きました。子供の頃からどれだけ多くの方がふれあって下さり私を育てて頂いたのか。自分の宝を見つけるには僧伽の仲間が必要です。自分一人では輝くことはできません。

私が主任のお役を拝命した日の2018年のご親教の中で、あらゆる出来事を自分事として捉えていくと豊かな人生が待っている、と教えて頂きました。

またその年に発表された基本構想では、惜しみなくつながることをお示し下さいました。私は主任のお役を通して あらゆるご縁を自分事として取り組み、惜しみなくつながっていくことを決意いたしました。

おかげさまで組長さんはじめ次々とたくさんの方とのつながりを頂き、出会いから学び、悩み、深めていき、私の人生に大きな喜びと輝きを与えて下さっています。

6月2日の京都教会60周年においては、子や孫の参加のおかげさまで親御さんや祖父母の参加につながり、他府県から参加して下さいましたご家族もありました。そのおかげで最後には私の義母も初めて教会とつながるお手配を頂きました。

60周年では家族ぐるみで参加して頂いた地区の会員さんお一人お一人をお迎えすることができ、嬉しい瞬間でした。

その時のことを会計さんより「今回、受付がなかったことで、主任さんが意識をもって自分の地区の会員をお出迎えされていた姿が素晴らしかった」とふり返して下さいました。

多くの方とつながることができたおかげさまで、私にも輝ける瞬間（とき）を頂けたのだと思いました。相手がいるおかげさまで。

また自分の宝（＝仏性）を輝かせることは、親孝行であり、先祖供養にもつながります。他と比べて卑屈になることなく、自信をもって自分の宝を輝かせていきたいものです。

今年の私の目標の一字は「讚」です。相手のよい所（仏性）を見つけて讚えていける私にならせて頂きたいです。そしてお互いに輝けるご縁にならせて頂くことを目指してこれからも惜しみなくつながっていくことを私の宝とし日々精進してまいります。

ありがとうございました。

合掌

祇園祭ごみゼロ大作戦 2019 ～京都明社会員が参加～

京都明るい社会づくり運動協議会は宵々山、宵山にあたる7月15、16日に祇園祭ごみゼロ大作戦2019（主催：京都市）に参加し、清掃ボランティアを行いました。2日間にのべ約30人が、四条烏丸付近を中心にゴミを拾い、歩き回りました。

数年前から繰り返し洗って再使用出来るリユース食器が導入されているものの、串や割り箸など分別が必要なものもあり、清掃開始前に事務局から説明がありました。

歩行者天国になった繁華街で道端に落ちているゴミを拾ったり、若者に食べ終わった食器はないかと声をかけ、コミュニケーションをとりながら集めた後は、

ゴミステーションに持ち寄るという作業を約2時間続けると、大変多くのゴミ回収ができ、美しい祇園祭の一助となりました。



壮年団参 ～壮年部活動への決意を新たに～

壮年団参が7月20～21日に行われ、京都教会からも参加しました。参加者からのレポートです。

7月20日壮年本部団参、午前7時30分京都教会集合。午前8時、ご本部に向け出発。バスの中で二品の読誦。お経の道場観如く「是のところは即ちこれ道場なり」の心境なり。



バスの中では「京都教会60周年記念式典」と「涅槃会」の開祖さまのご法話のビデオを見せて頂きました。

ご本部到着後、「開祖記念館」と「発祥の地・妙佼殿」を、二手に分かれて見学。

2日目、9時からの式典の御供養のあと会長先生がサプライズでご登壇

頂き、今この瞬間、瞬間がありがたい事で生かされている事への感謝をお説き下さいました。

その後、足利教会の池田さんの体験説法、椎名教団参務の講話、11時から交流法座、12時に式典終了。12時半バスに乗り込み、いざ京都へ。

足柄パーキング14時10分、浜松パーキングエリアを16時5分出発、帰り道も順調に進んで、17時35分湾岸長島パーキングエリアでの最後の休憩が終わり、京都教会真っしぐら

バスの中では参加者の方の一人一人の仏様から頂いた、功德の発表があり、各々がこれからの壮年部活動に対して、決意を新たに持たせて頂きました。

有意義な一泊二日の壮年団参でした。

ありがとうございました。



祇園祭曳き手ボランティア ～京都教会青年部と新宗連青年部が陰役～

7月17日、八坂神社の祭礼である祇園祭の前祭(さきまつり)において、京都教会青年部と新宗連青年部が放下鉾と孟宗山の曳き手・舁き手となりボランティアを行いました。

両青年部が混成しながら2つの山鉾を担当すること



で、交流を深めることが出来ました。

祇園祭は貞観11年(869年)に始まったとされ、今年で創始1,150年の節目。昭和41年(1966年)に前祭・後祭の合同巡行になりましたが、平成26年(2014年)に前祭・後祭の巡行が復活しました。



日常生活の中の仏教用語 ～えっ?こんな言葉も仏教が語源?～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【面目(めんぼく)】

面と目、顔のことだが、人にあわせる顔、体裁の意味で用いられる。「面目丸つぶれ」などという。禅宗では、「本来の面目(めんもく)」という言葉がある。

これは自己の本来の姿、つまり自分の心がとらわれ

たり、汚されたものではなく、生まれるずっと以前から備わっている清らかな心という意味である。つまり、仏になる素質ということ。

(「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋)

庭 野 日 敬 開 祖

法 話 集

～開祖随感より～

八月は、お盆の月であると共に、終戦を迎えた月でもあります。戦後 74 年。多くの御霊の慰霊と共に、「非戦への新たな誓いの月」にしたいと思います。

「民主主義を育てる」

八月十五日の終戦記念日が今年もめぐってきました。当時の日本男性の平均寿命は驚くほど低くなったという記録が残っているそうです。若く、尊い生命がどれだけ戦火に奪われてしまったことか……。

現在の私たちの繁栄は、そうした人たちの血と涙の犠牲の上に築かれていることを忘れてはならないのですが、時の経過は、そうした記憶を次第に消し去っていくように思えます。

いまの私たちは、平和にどっぴりと漬（つ）かりながら、その平和のありがたさを忘れがちなのではないでしょうか。

終戦後、日本はなんの犠牲も払わずに民主主義を与えられ、それがいまや、わがまま勝手の代名詞のようになっています。民主主義は決して完全なものではありません。

しかし、かつて全体主義が日本をあの悲惨な戦争に導いたことを思うと、私たちの手で、この民主主義をよりよいものに育てていく大切さを痛感せずにはいられません。それには、国民自身の成長がなにより大事です。

平和憲法さえあれば何もなくても平和でいられるのではなく、一人ひとりが平和のために自分にできる献身を惜しんではいけません。

「八月十五日の追善供養」

かけがえのない人を亡くして初めて、あれもしてあげればよかった、これもしてあげればよかった、と悔やむものです。

「父の死を泣いて拝む手があるのなら、なぜ生前に肩や腰をもんであげなかったのか。母の死に涙で唱える声があるのなら、なぜ生前に温かい言葉をかけてあ

げなかったのか」という經典の言葉があります。

すでにこの世にない父母の、肩や腰を揉んであげること、温かい言葉をかけてあげること、もうできないのならば、いま私たちの隣にいる人にそれをしてあげて、亡き人に喜んでもらう。それが追善供養です。

戦後五十年(1995 年当時)、祖国の平和と家族の幸せを願って命を捧げたま霊をお迎えする八月が、めぐってきました。生き残った私たちは、いま隣人に何をなさねばならぬのか、もう一度、心にしっかりと刻み直したいものです。

隣の国のために、アジアの国々のために、さらには世界の国々のために、私たちは何をしなければならぬか。何が出来るか……。その行動に一步でも踏み込めることが、戦火で命を絶たれたみ霊への供養です。

「生かされている恩返し」

仏教の教えの基本が、すべての存在は他との関係（縁）なしにはありえない、という縁起観であることは、みなさんもよくご存じのとおりです。その教えをどう実践に移していくかです。

まず、自分が今日一日を無事に過ごせるのはだれのお陰であるのか、どれだけの人のおかげをいただいているか、その縁起を知ることが報恩行の出発点です。

私たちは仕事が順調に進んでいるときには、すべて自分の力、自分の努力の結果だと思い込んで得意になっているのですが、それが、どれだけ多くの人の後押しによってなっているか、毎日、振り返ってみる習慣をつけてしまうことが大切です。朝夕の經典読誦のご供養は、その行の一つなのです。

いつも、まわりの人たちへの感謝を忘れずに、その感謝の気持ちを素直に表わしていく生き方と、自分を過信して得意になったり、努力が報われないと恨んだりする生き方とは、天地の開きが出てしまいます。

先祖供養も、親孝行も、菩薩行も、すべて今日の自分をあらしめているものへの恩返しに行なのです。

(つづく)

8～9月の主な教会行事

●メッセージ

8月1日(木)	9:00～	朔日参り
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(木)	9:00～	戦争犠牲者慰霊平和祈願の日 釈迦牟尼仏ご命日
9月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
10日(火)	9:00～	脇祖さま報恩会
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

芸能界のジャニーズ事務所カリスマ社長のジャニーさんが亡くなりました。一代で大手芸能事務所に成長させた手腕が評価されています。87 歳という高齢にも関わらず、若手芸能人との接し方にも評判があったようです。友達感覚でふれあう、感性が若い等…。声をかけられた芸能人は喜び、持ち味を発揮します。エンターテインメントと我々とは世界は違えど、青少年育成をすすめる私たちも、人に寄り添い、認め、伸ばすということは、大いに参考になるような気がします。